

TEMPUS テンプス

2017年(平成29年) **63**号



第59回民俗芸能大会に出場する

貝塚の東盆踊り

〈貝塚市〉

も く じ

第59回近畿・東海・北陸ブロック民俗芸能大会（大阪大会）を

11月12日（日）に開催します

要家住宅の国登録有形文化財を記念してイベントを開催しました

/ 岩橋善兵衛と望遠鏡④ー善兵衛をめぐる人びと その1ー

/ 古文書講座ー市内にのこる身近な古文書ー

孝恩寺の仏像 - 菩薩⑦ 十一面観音（伝観音菩薩）

/ 水間街道沿いの道しるべ その6

参加者募集のお知らせ

文化財講座・セミナー



第59回近畿・東海・北陸ブロック民俗芸能大会（大阪大会） を11月12日（日）に開催します

近畿・東海・北陸ブロック民俗芸能大会は、各地の貴重な民俗芸能を公開して、その価値を広く知ってもらうことで、民俗芸能の保存・振興、文化の交流、地域の文化振興などに役立てることを目的に、近畿・東海・北陸各府県で開催しているものです。今年には本市で開催することとなりました。

本市からは、大阪府指定無形民俗文化財の「貝塚の東盆踊り」が出演いたします。出演団体を紹介しますので、近畿・東海・北陸を代表する素晴らしい民俗芸能が集まる本大会に、ぜひお越しください。

会場：貝塚市民文化会館（コスモシアター）大ホール 12時30分開演（12時開場）
入場は無料で、入場整理券を貝塚市民文化会館、大阪府教育庁文化財保護課にて先着順で配布しています。（入場整理券をお持ちの方から優先して入場いただけます。）

◆山田権六おどり（やまだごんろくおどり）

吹田市地域無形民俗文化財

山田地区権六おどり保存会（大阪府吹田市山田東）

吹田市山田地区で古くからおどりつがれてきた盆おどりです。山田村に住む宮大工の権六は自分の建てた圓正寺の見事な出来栄えに浮かれておどります。その滑稽なおどりにつられ村人たちにもいつしかおどりの輪が広がります。



◆櫻山八幡宮の獅子舞（さくらやまはちまんぐうのししまい）

櫻山八幡宮獅子連中（岐阜県高山市桜町）

「高山祭の屋台行事」は国重要無形民俗文化財に指定されています。櫻山八幡宮の獅子は、江戸時代から続く秋の高山祭（八幡祭）において、鬨鶏楽・裃姿の警固など時代絵巻さながらの光景のご神幸や祭屋台の巡行で先頭を進み、道を清め「ご分霊」の厄払いの獅子舞を演じます。



◆尾張万歳（おわりまんざい） 国指定重要無形民俗文化財

尾張万歳保存会（愛知県知多市八幡字汐海道）

愛知県知多市八幡周辺に伝わる尾張万歳は、正月の祝福芸として長い歴史を持っています。さらに明治以降は幅広い大衆芸能として発展し、多くの人に愛され、平成8年には国指定重要無形民俗文化財の指定を受けました。





◆大杉ざんざこ踊り（おおすぎざんざこおどり）

兵庫県指定重要無形民俗文化財

大杉ざんざこ踊保存会（兵庫県養父市大屋町大杉）

疫病を払い、村の繁栄を祈って毎年夏に奉納される大杉のざんざこ踊り。踊り手は頭にシャグマと呼ばれる赤い髪のような飾りを付け、腰の太鼓を打ち鳴らして勇壮に踊る様子から「鬼おどり」と呼ばれます。



◆八田獅子舞（はったししまい） 福井県指定無形民俗文化財

八田獅子舞保存会（福井県丹生郡越前町八田）

江戸時代の中ごろから続くといわれる、集落から悪霊を追放するための獅子舞です。6つの舞から構成されており、優雅に舞う獅子や、その逆に激しく舞う獅子の舞を見ることができます。



◆西岩代の子踊り（にしいわしろのこおどり）

和歌山県指定無形民俗文化財

西岩代伝統芸能保存会（和歌山県日高郡みなべ町西岩代）

西岩代の子踊りは、西岩代八幡神社の秋祭に奉納される子供たちによる祭礼踊りです。江戸時代中期ごろに流行した歌舞伎踊や地芝居の振りを上方から採り入れたと伝え、舞台上で拍子木とともに若衆が土地訛りで口上を述べた後、引き幕を開け、音頭の歌に合わせて元気いっぱいに踊ります。

◆貝塚の東盆踊り（かいづかのひがしぼんおどり） 大阪府指定無形民俗文化財

貝塚市東盆おどり保存会（大阪府貝塚市東）

江戸時代中期が起源とされ、毎年8月14日から3日間、円光寺境内で踊られます。「口説き※₁」と「さんや※₂」の2種類の音頭、ゆったりとした優雅な踊り、工夫をこらした仮装、三味線や尺八、大正琴などの伴奏が特色です。 <写真は表紙にあります>

※1 口説き…盆踊りに用いられる歌で、歌詞が物語になっているもの。

※2 さんや…一口音頭を囃子（はやし）でつなぎ、くりかえしていくもの。

本市教育委員会では、民俗芸能の活性化を図るため、民俗芸能団体が抱える課題を共有し、団体間の交流を図る「民俗芸能の課題に関する意見交換会・交流会」を企画しています。民俗芸能大会前夜（11月11日）に、泉州地域の盆踊りを中心とした保存会、民俗芸能大会参加団体の方などに集まっていただき、開催することとしております。次号のテンプスで、当日の様子を報告させていただきますので、お楽しみにしてください。

要家住宅の国登録有形文化財を記念して

イベントを開催しました

平成29年6月10日（土）に、本市畠中（はたけなか）の要家住宅について、特別見学会とフォーラム「岸和田藩七人庄屋（しちにんじょうや） 要家を考える」を開催しました。

午前中に行った特別見学会は、10時からと11時からの2回、それぞれ30名限定で行いました。表書院、離れ書院、表長屋門など登録対象の11件の建造物を中心に約40分をかけて邸内を見学しました。参加者の皆さんには、文化財担当職員の説明に熱心に耳を傾けていただきながら、岸和田藩の七人庄屋屋敷を構成する建造物群を見学していただきました。

午後からは、和歌山大学名誉教授の藤本清二郎さん、本市文化財保護審議会委員の田中正視さん、大阪府教育庁文化財保護課の地村邦夫さんを講師に迎え、フォーラムを開催しました。藤本さんには畠中村・神前（こうざき）村の庄屋であり岸和田藩の七人庄屋であった要家のもつ歴史的な意義について、田中さんからは「生物多様性の聖域」ともいえる広大な要家屋敷がもつ自然環境的な意義について、地村さんからは要家住宅の建造物の特徴と現在の文化財保護制度について、それぞれご講演いただきました。参加者の皆さんにとって、地域の財産である要家について、理解を深める機会になったと思います。特別見学会は、今後も定期的に行っていく予定です。

なお、要家住宅の11件の建造物は、平成29年6月28日付けで国の登録有形文化財となりました。



説明を熱心に聴く参加者のみなさん



フォーラムでの講演後の意見交換

岩橋善兵衛と望遠鏡④－善兵衛をめぐる人びと その1－

前号までは、善兵衛が自身の製作した望遠鏡の販路を広げるための宣伝として行った、京都での天体観測の様子を紹介しました。今号からは、善兵衛と当時の知識人たちとの交流を紹介します。

善兵衛は、京都ではじめての天体観測を行った年である寛政5（1793）年の秋、大坂の木村兼葎堂（けんかどう）という人物を何度も訪ねています。その中で、10月4日に「日眼鏡」（ひめがね）を持参し、翌5日に大坂備後町（びんごまち）の平野屋作兵衛宅の座敷で「眼鏡見物」（天体観測）を行ったことが『兼葎堂日記』に記されています。

木村兼葎堂（1736～1802年）は、通称を坪井屋吉右衛門といい、造り酒屋等を営む商家に生まれました。博物学者、文人画家、出版家等さまざまな顔を持ち、近年はなにわの「知の巨人」と称され、高い評価を受けている人物です。善兵衛が遺した寛政10（1798）年正月吉日付の「仕入方直段控帳」（しいれかたじきだんひかえちょう、「直段」

古文書講座

—市内にのこる身近な古文書—

◆根来者（ねごろもの）と泉南・紀北—秀吉の紀州攻めとその後—

平成29年6月7日から7月12日まで各水曜日の5回にわたり、古文書講座53「根来者と泉南・紀北—秀吉の紀州攻めとその後—」を開催しました。



熱心に聴き入る受講生のみなさん

江戸時代に紀州藩に取り立てられた「根来者」がまとめた自分たちの正当性を示す由緒書をテキストに、豊臣秀吉、さらに徳川家康、紀伊徳川家との関係の話を取り上げ、当時の様子を考察しました。

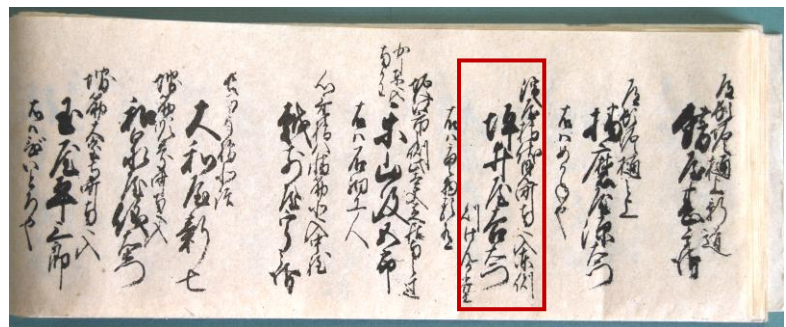
秀吉の紀州攻めのうち近木川周辺の戦いは、秀吉勢に対峙する根来（ねごろ）・雑賀（さいか）の衆や、地域の土豪や地侍（地方に暮らす武士）をはじめ百姓らが、近木川流域の諸城に立てこもった戦いです。戦いは圧倒的多数を誇る秀吉勢にわずか2日のうちに敗れました。その後、秀吉勢は紀州へ向かい、根来寺を焼き討ちし、雑賀衆のこもる太田城を水攻めにしています。その後根来寺の勢力は智山派（ちざんは、京都東山に智積院（ちしゃくいん）を復興）と豊山派（ぶざんは、大和の長谷寺を拠点とする）の二つに分かれ、かつて根来衆と呼ばれた僧兵とされる「根来者」は取り残されていたと記されています。

さらに、根来者が秀吉と家康との間で争われた小牧・長久手（こまき・ながくて）の戦いの際、家康に味方し、勇猛果敢に戦った様子が描かれています。その功をもって、徳川將軍家や紀伊徳川家に召し抱えられることとなったと綴られています。

受講者の方からは「根来者を取り巻く時代と紀州藩との関係、大変楽しく勉強になりました」などの声が寄せられています。

は値段のこと）〈右写真〉にも、「淀屋橋伏見町南へ入東側／坪井屋吉右衛門／則（すなわち）けんか堂」と記されています。

善兵衛は、当時の兼葭堂の屋敷に日々学者や文人たちの訪問が絶えなかったことを知り、大坂ではまず兼葭堂を訪ねて自身の製作した望遠鏡を宣伝したものと思われます。兼葭堂を訪ねたことで、のちに幕府の改暦事業の中心となった大坂の天文家、高橋至時（よしとき）、間重富（はざましげとみ）らにも善兵衛の望遠鏡の存在が知られることとなり、望遠鏡の販売ルートに加え、善兵衛自身の知識人たちとの交流圏をも大きく広げることとなった



「仕入方直段控帳」（ 内が木村兼葭堂記載部分）

と思われる。

孝恩寺の仏像 一菩薩⑦ 十一面観音（伝観音菩薩）一

木積（こつみ）の孝恩寺には、平安時代制作の19軀（く）の仏像が安置され、うち18軀が重要文化財に指定されています。今回は、その中から十一面観音立像（伝観音菩薩）を紹介いたします。

【重要文化財】十一面観音立像 1 軀

時代 平安時代後期（9世紀）

像高 179.5cm

指定年月日 大正2（1913）年4月14日

観音菩薩は、33に姿を変えて衆生（しゅじょう、生きとし生けるもの）のあらゆる願いにこたえてくれるといひます。十一面観音はその変化した姿の一つで、頭上に10または11の小さな面（顔）をつけた観音菩薩です。本像は、阿弥陀如来坐像の脇侍（きょうじ）の観音菩薩像として安置されていますが、頭上面に穴があることから、本来は十一面観音であったことがわかります。髻頂（けいちょう）より足元まで、少なくとも右手首、左臂（ひじ）までを含めて、カヤの一材から彫り出しています。装飾品や持物（じもつ）、漆箔・黒漆（くろうし）などは後世のもので、また頭上面のすべてを欠失していますが、保存状態は良好です。腰をしぼった天平風のきわめてプロポーションの良い姿をした像ですが、表情は暗く、肉身は固太りで、衣部も木彫りの固さに柔らかい布の表現が並存している等の特徴から、製作は平安時代後期（9世紀）と考えられます。



水間街道沿いの道しるべ その6

水間街道は厄除けの「水間観音」として有名な水間寺への参詣道です。今号では、三ツ松に残る1基を紹介いたします。

水間街道町石（ちょういし）3（三ツ松）

三ツ松を通る水間街道沿いに建てられている水間寺までの距離を示した町石という道しるべです。1丁（＝町）は約109mで、正面に刻まれた「八丁」は約872mになります。側面には「明瀬永次郎」（みょうせえいじろう）という名前が刻まれており、この人物によって建てられたものとわかります。



参加者募集のお知らせ

◆古文書講座54（通算257回～261回）

「殿様御成（とのさまおなり）」

日時 第1回 平成29年10月11日、
第2回 10月18日、第3回 10月25日
第4回 11月8日、第5回 11月15日
いずれも水曜日午後1時30分～4時
会場 貝塚市民図書館2階視聴覚室
資料代 100円

江戸時代、岸和田藩の殿様は国元に帰ると、村々を巡見したり、狩りや魚釣りなどに興じたりと、領内をまわりました。その時村役人の家などに立ち寄り、昼食や休憩を取ることを「殿様御成」と呼び、それぞれの家の名誉と受け止めていました。当時の古文書から、その様子を読み解いていきます。

◆第112回かいづか歴史文化セミナー

講演会「岩橋善兵衛ゆかりの浪花“知”の巨人
博物館学から文人画まで—木村蒹葭堂とその生涯—」

日時 平成29年10月14日（土） 午後2時～3時30分
会場 貝塚市民図書館2階視聴覚室 ※参加費無料
講師 橋爪 節也さん（大阪大学文学部教授）
定員 50名（定員になり次第締切）

あわせて、郷土資料展示室企画展「岩橋善兵衛の時代の科学技術」を10月22日（日）まで開催します。また、貝塚市立善兵衛ランド開館25周年事業として、11月2日（木）から30日（木）まで特別展示「岩橋善兵衛展」（会場：善兵衛ランド）、11月18日（土）午後2時～4時にシンポジウム「江戸時代の望遠鏡製作者、岩橋善兵衛の実像にせまる」（会場：山手地区公民館）を開催します。



重要文化財
絹本着色 木村蒹葭堂像
（谷文晁筆）
大阪府教育委員会所蔵

◆『貝塚市の70年』を読む会 秋の記念講演会

貝塚市制70年を記念して平成25年に刊行した『貝塚市の70年』を活用し、平成28年10月より歴史講座「『貝塚市の70年』を読む会」を開催しています。

この秋の記念講演会は、「貝塚市における繊維工業の軌跡と女性労働者—『貝塚市の70年』編纂の調査を通して—」と題して行います。

日時 平成29年10月28日（土）午前10時30分～12時
会場 貝塚市歴史展示館（ふるさと 知っとこ！館） ※参加費無料
講師 今井 小の実さん（関西学院大学人間福祉学部教授）



申込 住所、氏名、電話番号を、電話・FAX・Eメールのいずれかで、下記まで事前にお申込みください。

連絡先 〒597-8585 貝塚市畠中1丁目12-1（貝塚市民図書館2階）貝塚市郷土資料室
TEL 072 (433) 7205 / FAX 072 (433) 7053
Eメール shiryoushitsu@city.kaizuka.lg.jp

文化財講座・セミナー

◆10月

郷土 11日(水) 古文書講座54①「殿様御成(とのさまおなり)」

郷土 14日(土) 第112回かいづか歴史文化セミナー
講演会「岩橋善兵衛ゆかりの浪花“知”の巨人
博物館学から文人画まで一木村兼葎堂とその生涯」

郷土 18日(水) 古文書講座54②

郷土 25日(水) 古文書講座54③

歴史 28日(土) 『貝塚市の70年』を読む会 秋の記念講演会
「貝塚市における繊維工業の軌跡と女性労働者
—『貝塚市の70年』編纂の調査を通して—」

◆11月

郷土 8日(水) 古文書講座54④

郷土 15日(水) 古文書講座54⑤

青少年 19日(日) 「かいづか家族の日」関連事業
第113回かいづか歴史文化セミナー
「家族で“まがたま”づくり」

歴史 26日(日) 『貝塚市の70年』を読む会⑭
「戦後の福祉政策と婦人会の結成」

◆12月

歴史 17日(日) 『貝塚市の70年』を読む会⑮
「貝塚都市計画の決定」

◆1月

歴史 28日(日) 『貝塚市の70年』を読む会⑯
「農地改革から1950年代の農業」

郷土資料展示室

企画展「岩橋
善兵衛の時代
の科学技術」

10/22(日)

11/2(木)

市民図書館事業
「吉村萬壺の
世界」

11/29(水)

12/9(土)

「貝塚市の
指定文化財」展
第3期

※ 郷土 : 郷土資料室 歴史 : 歴史展示館 青少年 : 青少年センタープレイルーム

貝塚市歴史展示館(ふるさと知っとこ!館)企画展 開催中

「戦時中に使用された国民食器・統制陶器」

会期 平成29年12月28日(木)まで

開館時間 午前10時～午後4時

会期中の休館日

- ・毎火曜日
 - ・10月9日(月)、11月3日(金)
 - 11月23日(木)、12月23日(土)
- の祝日



貝塚市イメージ
キャラクター

つげさん

貝塚市特産品「つげ櫛」
をモチーフとしたデザ
イン。

イベントごとが大好き。
普段はのんびり、でも
祭りには萌えます。

かいづか文化財だよりテンプス63号



平成29年10月2日発行

貝塚市教育委員会

〒597-8585 貝塚市畠中1丁目17-1

Tel(072)433-7126 Fax(072)433-7053

Email: shakaikyoiku@city.kaizuka.lg.jp

※テンプスとはラテン語で「時」を意味します。

年3回発行:各1,000部